

---

# 影が差す方へ

蒼空零無

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

影が差す方へ

### 【Nコード】

N9843G

### 【作者名】

蒼空零無

### 【あらすじ】

とある少年の高校生活、だが。ある出来事によって生まれた謎の存在『影』が現れた事により、その日々は一変した、学園SF小説。

## 第一話（前書き）

初投稿小説なので誤字脱字は多少あると思いますが、読んでくれると幸いです。

## 第一話

夏の青空

初夏の6月とは思えぬ、白く輝く太陽が地面を焦がす様な日射しに、嫌気でさえも暑さで溶けてしまいそうな気分で通学路を歩く、白の半袖Yシャツに学校指定のチエツクのズボンを穿いた高校1年の生徒、なつかわ夏川 けい慶。

彼は学校へと流れていくような生徒の動きをチラリと見つつ、お気に入り曲を聴いて歩いている。後ろから衝撃が当たって、アスファルトに倒れるまでは。

慶は痛みがある部分を擦りながら、衝撃の正体がいる後ろを見た。

「何やってんの、そんな事してたら危ないわよ」

片手に茶色の薄鞆を持った、長髪に今時時代遅れの赤いリボンをつ顔の右辺りの髪に結わえた。慶とは違うクラスの女生徒の、みつき美月 ゆき雪。

「誰が腐れ縁ですって？」

人の思っている事をまるで見たかの様にそう言って左手を拳に変えて顔と同じ高さにする美月。

「あのさ・・・、いい加減やめて欲しいんだけど」

ズボンに付いた埃を払いながら言う。

「いいじゃない、言うより実力行使っ」

自ら悪くない様な言い方でこじつける。慶はいつもの事なのでそのまま学校へと歩き出す。

それに気づいて美月も並んで歩き出す。

「それと、俺と並んでいいの？」

慶は道の向こう側で二人をクスクスと笑う、女生徒の集団を顎で指す。

「あつ、忘れてた」  
美月が急いで向こう側に去っていくのを、呆れながら見届ける慶だった。

朝のHRホームルームが終わって、1時限目まで少々時間があつたので他のクラスに行こうとした瞬間。

「よつ、夏川『かがわ』」

と声を掛けたのは、クラスメイトの谷塚たにつか 松治まつじ。中学の時はあだ名で『マジ』と呼ばれていた、現在バスケット部の人物。夏川を『かがわ』呼ぶのも彼だけ。

「どしたの？」

慶が言っていると谷塚は。

「昨日の数学の宿題、やったか？」

慶はその言葉であつ、と思い出し、半分までしか手を付けていない事に気がつく。

急いで鞆から数学のノートと教科書、筆入れを取り出す。

「やってないか・・・、すまん、他を当たるよ」

慶は力になれない事に少し気が沈んだが、それよりも自分自身の問題に手を付けなければと、急いでそっちに切り替えて問題を解いていった。

その日の昼休み。慶は美月と谷塚と屋上にいた。

慶が通う学校では昼休みの間だけ屋上を開放している、その他利用の際は担任か副担任からの許可証をもらわなければならない、と言う規則がある。

とは言つても、利用する人など滅多にない。

それ故なのか、屋上は昼休みしか利用されない、正に宝の持ち腐れ

である。

何故そうなのかは、屋上の景色は絶景に等しいだからだ。

「夏川・・・夏川？」

誰かの呼ぶ声に我に返る慶。

「なんかあつたか？」

心配そうに見る谷塚に、苦笑いを浮かべる慶。

「慶はいつつもそうなの、想像癖そつぞつへんまで」

慶はむっとしてフェンスの向こう側の、山の景色の方に向けて箸を進める。

「想像癖って・・・」

「慶は中学生の時から何かしら想像する癖があつて、だから想像癖」

「おいおい・・・」

二人の会話をほぼ無視しつつ、景色を眺めていた慶だった。

その日の夜。

家の屋上で満月を眺めている慶、そして横にいる、顔がのっぺらぼうの姿全体が真っ黒で、翼と尻尾がある人物。

慶は彼の事を『影』（普段は慶の人影の部分にいるから）と呼んでいる。彼は慶から生まれた存在であり、その誕生は中学生の頃にある。

慶が高校に入学してから13歳の誕生日の日の夜。

その日、父親に入学祝いに買ってもらった望遠鏡で、屋上で満月の星空を一人で眺めて、一番星が輝いて見える深夜を回った時。突然月食が発生し、慶が昔、生前の叔父からもらった青色の勾玉が強く、青く光り始め、慶はその光に飲み込まれた。

次に気が付いた時には月食はなく、勾玉の光もなかった。それと何かが抜け落ちた様な感覚。

しかし、それでは終わらなかつた。

「ここが俺の運命か……」

慶がバツと後ろを向くと、彼（影）がいたのだ。

「あれから2ヶ月……だもんなあ」

月を仰いで、感慨深そうに呟く慶。

「そうだな」

影も同意の声を上げる。

「……ねえさ」

「なんだ？」

「呼び名、変えていい？」

「……」

そうして影と初めての夏が始まったのだ。

## 第一話（後書き）

自分なりに考えてみた連載小説第一弾なんですが・・・、ここから色々な事が複雑に絡み合っっていくのに悩みますが、頑張って書いていきます！



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9843g/>

---

影が差す方へ

2010年11月19日16時51分発行